



助教

井川 大樹

いかわ だいじゅ

作業療法学科

【専門領域】

回復期リハビリテーション病院で7年間、身体障害・老年期障害のリハビリテーションを経験し、その後、訪問看護ステーションで4年間、生活維持期におけるリハビリテーションに携わりました。対象疾患としては、脳血管障害・整形疾患・呼吸器疾患・神経難病・小児疾患など、幅広い疾患の患者への作業療法を行いました。

東京大学大学院修士課程にて、人間の身体技能における巧みさを研究テーマとした研究室に所属し、身体障害領域の作業療法においては避けて通ることができない、「人の身体に手で触れる」ことについての基礎研究を行ってきました。作業療法士が患者に“触れる”ことで与える影響を非線形力学系アプローチにより明らかにし、最新の科学技術と融合させながら、患者支援の更なる可能性を探ることを目指します。

研究・実務の業績

1. 井川大樹, 中村裕美. (2015) 固有受容器感覚からの姿勢制御による身体図式への作業療法. 第49回日本作業療法学会 (兵庫県).
2. 井川大樹, 三浦哲都, 工藤和俊. (2018) 二者間の身体接触が立位動揺に及ぼす影響. 生態心理学研究, 11(2), 63-66.
3. 井川大樹, 三浦哲都, 工藤和俊. (2018) 相手との接触および視覚情報が静止立位動揺に与える影響. 「顔・身体学」第2回領域会議 (沖縄県).
4. 井川大樹. (2019) 立位姿勢動揺の対人間協調ダイナミクス. 2019年度東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻生命環境科学系修士論文集.

学生へのメッセージ

作業療法士は、対象者の疾患や領域の幅が広いことが特徴です。言い換えるなら、様々な種類の“困っている”に出会います。ですが、「作業療法士の仕事って何か分り難い。一体どういうことをする仕事なの？」と思ったことはありませんか？

事例で考えてみましょう。一人暮らしのおばあちゃんから、「最近スーパーに買い物に行くのも大変で、ゴミを出しに行くのも一苦労。困ったものよ。」と、身体に障害を負ってしまった親戚のおじさんから、「仕事に行く前にネクタイを締めてスーツを着るのに30分かかってしまう。もう少し早く着ることができると朝が楽なのに。」と、相談されたらどうでしょう？あなたなら、この問題をどう解決しますか？

身体や心に障害を負うということは、何か特定の一つの局所的な問題だけに留まりません。問題はもっと大域的な部分に広がっていきます。“買い物”“ゴミ出し”“着替え”は、たくさんの構成要素によって成り立っており、住んでいる地域の社会資源とも密接に関わります。非常に複雑な問題を解決しなければならぬのが作業療法士の特徴です。作業療法士は知識や経験だけでなく、人間性も含め総動員で患者支援を行います。

東京保健医療専門職大学では、人間性に関わる“創造力を磨く教育”が充実しております。本学で、“ひとと味違う”作業療法士を目指してみませんか？皆さんの大学生活をサポートできることを楽しみにしております。